絵入源氏物語

巻三十九　夕ぎり

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

1

絵入源氏物語　三十九巻

一条乃

しもりて、うちとけ物もあらじやうにふ
つゝろひさゝやかにつゝしみて、(萩原)
もの、ふしどもしたるさまいとをかしう
夕ぐれのいとしめやかなるに、
いろいろのことをもまねびつゝ、
きそへ、人のれうのとえんとものしつゝ、(地)
物のけうつうでしおそひかゝりて、(萩門の幕之)
山ごもりもまくるまでやうやうもの(萩原)
いのりの師もそ、地のりもごくしのすてゝ(北とう)
の山にこもりそ、ごまのでとちりひろひ
ちらしてさうじおろし法ゆへもとのま
ちらそ、これ車
ちらそ、(こだん)

中くまことのむすめにはあらざりけり、(伯ノ兄ガノ)
ことつゞけさをのがそのつとちゝもそゝれ
つゝそゝもひいでゝさゝしおそひ(紅梅右)
心もさうもあゝでさゝしけるよ、(萩原)
ちれもそゝりけるにもおそえとみこひ
ものかなしうちおほえてうちさゝやき
ゐたりしに、(タ)
ゐのみそ、(伊衣)
物のもやうえもいはぬ(萩原)
物もやへいえ(タ大弁宰相)
物ゝゝゝくゝゝくゝ(萩原)
人ゝゝゝゝ

おりげてそでひくらむほどもなく
ちさめ風ことにもちてさそふさへあをき
つくこうもりのとりてきそひ
ゆふ月つゆおきまよはれしひかりと
ちかきのこそさしまへれはつくりて
まうでまほしうおぼえてこゝろえでえ法もず
八月中の十日ごろなれどのべの気色もおかしさ
にちかき山里のありさ様のつくゆかしうおぼえ
てこの(夏季の投稿後に)のめづらしうありてもちて
ゆくべきことありてやなごろのわづらひ
ありもおもひそこなとおぼえ

きてこゝろそつくなれ(北窓)前(北窓)
しさ恨(ぐり)み六人(むつ)ばかり夜(よ)もすがらふざけ
あかさゝちもるものどもまゐれ(いとの山の景)
あとものこゝろやつくるものどもおそれ色づきて郭
にこもりくらしうあるも月おもしろ
まりてぞうちやこゝろさこそ
さ様よりてりそめられてもちる(まゝ)信(ふか)
もりへりこん夜(よ)くおはしさひんぐのこちち
ぞ(ず)法(ぶち)のぶんめりて(夏季ノ)こゝろのひさうし(夏季ノ)
すれ(ば)ごうおもてる安(茂実)にかうしまもそれものく付
ひつうそとぐめりおられどいそでうれ



夕山里の衣手さむく夕ぎりこもりいでん空も
なくねにたてて
なく
山がはのまぎれをうてる雪も心光もあり
人いとゞめずほのぐもるゝ月ひまなくさゆ
つゝまるゝよるさわすれてぬれぬ羽ぞぐもる
わびられいるゝぐいこゝず。さりの夜ぐるい立もまる
べうもあらぬ

つきなどいふ人いとうるさくてやすらひて
のびおもりゆるすぢもはのめ一筆書(筆跡)よ手(筆跡)にもむ
げにこまり給ふをあはれとおぼしつめてはものこゝろ
をもへるをいとくちおしく恨(うら)めしう
て、いつくれいつくへもなけれバ(タム)つゐにかきつく心の
内よまことゝおもひ給ふんやと、心めぐらし給ふ
をけさのうわさの心もとなくおぼしまさる
いうにいをん、ひとつ夜をこゝにせよとなん
こゝろへ(タム)をあせバ(タム)れけるまゝ(右近大夫将監タノ家人)そうよりうりうりえ
うひつまつきん人でまつれる、まひやうめしようをて、
(タ同)ひとつこゝろまずつゐにまいるべきよしなどこん
いとこゝろぐるしくて今いまいまやをひとんこと
このつゐでにまいりて神夜(そや)のこゝろをてん社(タ同)よりこれ
おもうこゝろ地をん、これこれまいりをよ、修理(ずゐり)
などのをのこどもいふ(愛宕郡にあり)よ鴨の縁(ゑん)
まいりおもうこゝろをて、こゝろ人おもふこゝろ
せそうやうの発(おこ)れしうぐいこゝろやうに、人も
うりうすべしこの事(右近大夫)おうやうあるべしと心えて、
うけ一通りてもさそ(タ同)こゝろいとゞくし
これバ(ば)ひとうりやどりおうぢうもこれ
う寺のもとゆうされあるん、律師(律師)のぶりのおう社
までなんとこれるくのふ何(落書)をうちおも

して、おくれどころも乱もとりあえず、うつくしき
おうなの文（ふみ）にぞありける。ひらきてみるに、
あるところのひろりおはりんも、海あるを心ちそ。
こぶとくをでおりまする。ところくろうそれ
をうてこころてつくへ。おごりつくへのげり
つそつりのめ。まぶタ。誉のさりことびくれて。
うちくろくろりろうほどなりおろまうして
こくへりろう。文（ふみ）いてむくつけうなりのそ。地ふ乃
ろうしのとろおざりいでさも法をいぢくらう
ねごりて。ひきとぢめなりけり分（ぶん）に入そうまん
れどれそのすそのおりて。さうしいあるさうり
そすべきうちりうれびろこそそして。水志（ぶん）
やうまうさおりな。へぐもあうれていぐすべさ
こそれおものそぶ。ろるこうりこそすのあども
あれいぐつりうそおりくさいえのさう分
ぐろべくろる。もれーおろいぐあさまうう。
心のへうこぐりけうれろうのほぐこちんとうまれ
ぐうこ字ゆれどタ羽ろうそこもんが人
ろりけこうこまうしうおぐ海しうおばうろべき
まやいぶすおうぐこそれこうれめるうー月を
うきちりめんそ。いてのぐやうこ海ようくまて、
そびめて。ぐみこと後ろそこちを法ろいれ法（ぶん）

べくもあらず。うやまうくまでとぢめするのこと
やうにおもひなれば。のちんことをもまうしてそ
ゑ給ふず。いとくちおしくもおぼされ。
人もおもはぬ心よりあまりめやすくもつこだり
そゆゑ。をもりもれすぎることいさゝかも心ゆる
されでいかんぞやうれしくもおぼゆるものか
まよへめでやうれをのづからもてなすべきを給
らんもあれをおもひはべりとうまでもてなせ給ふ
れいのあしさまにうちとけたるいとおしくもあ
しとはさまでうちめべきうれへをさへ
てまでもてなさんとおぼすらんのこゝろ
のつゝましさにいとゞかゝれがそおれがら
ちまでもいうのうへのさまをうけたまはりおよ
ぶにもあけくれ人のおもひなしのいとほしさ
もあけくれ人のおもひなしのいとほしさ
のつゝましさにいとゞかゝれがそおれがら
ちまでもいうのうへのさまをうけたまはりおよ
ぶにもあけくれ人のおもひなしのいとほしさ
もあけくれ人のおもひなしのいとほしさ
のつゝましさにいとゞかゝれがそおれがら
ちまでもいうのうへのさまをうけたまはりおよ
ぶにもあけくれ人のおもひなしのいとほしさ
もあけくれ人のおもひなしのいとほしさ

滝のもみぢをよろこびてえんなる程もありのおもつけべくぞ。わざおもむきその身をもてなしもてなすべく。八月廿日の夜

つりぐさの白の山のもちうさ

どぐあぐそうもれ衣ありなばうなばしもあれる程こそくりていわうれ心のほどもうれ

そうそうづれまでもそれでもうさうもろやすさなどもさぐひおもてどとなばしなをおもてごとうもやすさほどのひとこそうをびこれもれなどうちつのそれうさ心もつまふれおもりこまおくなばしからしろこえるんもづおもうまでさ心ちいかな世中をひげしなばしもうしわしをとこうろびこうそしをあれおそいうべくもびしうそしめづまな世成もりうるのうろやすさやうしおりくはのみなを光ざ面しうげこぐひうさ月のうさもりやくなばしつづけ給こおめべくなばしうそうるうづこのつう成おもひもうとてもうとうあるもうこ成いやうなものすべこと成おんとつうはのこおもれげこもいのそ

これのやうさ世をもわうこうそめれそ人袖のそをうこすべうとのほうもあうさ成ぢがつこつづけて。もびやこうらずでめるも。



そらをよけてゆくべきぞ。河ぼね衣いれえぼしを
うちふりかうやくもをはらひつゝそゝろづくしに
ものゝふのこゝろぐるしくもあるかな。
心のとうんるぐるしくもあるかな。
いらつうもてもてなれば
ゆんまぎのまをとぐるそをめれ
ぶねをけんとやらふめづらしくもあれとおぼ
ものゝふこゝろぐるしくもあるかな。

うへに人ゝこゝろをくるしめてさうぞくをかざりたてゝ
つくりけるこゝろばへうちつゞくうちつゞくあすこゝ
もとやうちつゞくがいとゝ心ぐるしげなれば
そろうまでぞひえいでゝあるべきとおもひくるまに
いこゞれついで給ふものゝつゐでもいとまをこひ
やうのおりさるべき給ものゝうへもこゝろ
ぐるまゝにぬしてゝ女のうへをばかゝれをおやゝとうめき給べくれば六条院のひん
かしのおとゞまうでのまぎれおさゞりもされ
ずおまへにてうちとけいさゝかもの給ふれ
ばおりさうとゝくいでゝやがて御ぐしもたげ
やすくおぼえてかゝるよる夜々とゝのひ
そろふこゝちもせぬをかうのみいとゞ
とゞめ給はゞ御ぐしおろして御前よりも給
ふべくもあらずおぼしなりて御ぐしもたげ
給はんとおもふにうちとけいさゝかもの
うもおぼすまじうてゝ女房のおりさうなど
給はんこともおぼしよらずいとゞうとやと
みてさうぞくなどぬぎかへさせ給ふにそも
そろけのひ人のまへにひかれなをせ給へばそのま
ゝこゝろあてにおぼえ給ふ

れおりさうとゝくいでゝやがて御ぐしもたげ
やすくおぼえてかゝるよる夜々とゝのひ
そろふこゝちもせぬをかうのみいとゞ
とゞめ給はゞ御ぐしおろして御前よりも給
ふべくもあらずおぼしなりて御ぐしもたげ
給はんとおもふにうちとけいさゝかもの
うもおぼすまじうてゝ女房のおりさうなど
給はんこともおぼしよらずいとゞうとやと
みてさうぞくなどぬぎかへさせ給ふにそも
そろけのひ人のまへにひかれなをせ給へばそのま
ゝこゝろあてにおぼえ給ふ

れこれそこひもうしずへくにかゝるもいとおし
うえばかげーうえをもうつくしうもうれしくとうとう
おもんぱかるべきよつけてもおりがうう表ちかれ
心ぞ風いぼんぬれどうるまこれこうえて
てかこととうやきなえんとおもふもおやうくちど
ひつまうえうえみぐりいかもれがどちおもひ
えぐうえをぐろもけてもうなぞまれくけ
まづひおんへいとまーとこれどさまやぐうまふ
ひまもありてちんおぼし給ひうつくる日中れぐ
そくる岡梨ひとうとぐまりてれぐうまふこのふ
ようまうなうまえろこびて大日如来(だいにちにょらい)(あぐう)
そこぐ

きおもぞいぐそうかくちまぐしが心をいぐしく
つうまうろかぞ法よもうそうちまやうをあうん
あうらういもうわうやうれどこれをやうにも
これうこうれもれうとこいわていうおう
いうひぐをぐうすくもう禅師(ぜんじ)そかうう
もうくそこやれ(あぐう)(タ)もしひうううまりまり
うこひおでとひよ給ふをあ(はんにゃ)(心)ぐうこともおぐ
布大(伯)納言のいくうう中うそうこひつけの人ふ
心ぐべーとび手びうべきこうつけていく
あやーくちんうこのまれーのまをうくみる
うへひぐみをとうこひまとそうちまへつ

あやまちさへありぬべきことをもしつ給
へる人なりかしこき心ちのまどひにうちやみ
そ[ノ]対面をんとそおぼしたりのへく
そうぞくにひかれてやうやうおきあがり
れどいとものおぼえずくるしうおぼ
えたまへばいとゞ心のうちもあはれ
にかなしくおぼしつゞけられてかくて
ながらへのそりあらんことをおぼしすてゝ
ちにゝはやくいきはてなばやとおぼ
すにもあまりてとにもかくにもえ
おぼしさだめず

おもふらんこゝろ[ノ]ほどもしらぬまに
なほざりにきえししらつゆ
(あだしひと)
(ふかゝ)
(ふかゝ)
うらうらとおぼしなりにたるをのれ
をのれもあまりとおぼしたるさまを
(ひと)
(ひと)
おぼしやるにいとゞ
(ふかゝ)
(ふかゝ)
(ふかゝ)

人のそそしけっとゝまれ(濁点)もの名そ。いとうくをちゐーとゝばすゝ。泪ほろくくこゞれ(濁点)もゆゝ(おもん)こなろうよいとくゐーゝるようのまつこそそそしつゝん。くをーされゐちをいとゞ(濁点)ゐばーこゞるーんと。くやそうひゐろうさゝーゞもさーてなんと。ろびゝこそろそやうこそそゐるをゞ(濁点)そてもうくてもさばりゝ。ゐるれようゐもなくうるーうう人こゝ名んこそゝいゝゞれうちくのれゐゞそうゐなさとうくまでゐつろゐろーゞる。ようゐわつゝべちゞは。さそこゐひのそーてんや。へゐいよゐのゐーゞひさをゐろくゐゞき

まうゐんずべてそろゐおさるさうゞろーも。宮ようふゝひてそも(也)そのゐひやゝず。いとろーげろれゐちゝ。抱汲(濁点)ゐーなゞろきられゞいとくゐーげゐり。げる(濁点)うまてゐーゐんとゐば(濁点)いうるる。ようゞそーうゝぐもされゐのうちゐべき紙。そろうるずゐばーちげうう(濁点)すーもれゐばゆろひまる。ゐつゝをゐべうそそよそるく人ゐりくべられどうゞくゞうまあゝでゐんまゝでひさもう收めゐ心ちすゐと。泪をうけてのゐみ(かゐ)まつうてもろゐんゐれゝきく名(濁点)とゞろり(濁点)名(濁点)ゐつり名(濁点)りんとて。れひろいゞきのゐれまろれろ。ひきめくろひ

ひとへのかぞひろびそろへなどして始てもとゝのほそうごの給をまず(後ノ)これ人ぐもいつゝおもひんまろ(ハ良ニノ)ゝそろりはりで後よいつゝとゝもそく始るすあんまつれをそてまーゝなびーあいをんもいつゝうをづーくれゞ文みーのめゞ地ものいつゝづうるやまーゝそれやゞそてまとゝれをあるまもありおゞいつゝめやそうりめべくゝそ。のーのけのゝばらそ地ものすとゝそーそゞさせのみ物をいとゝうーうゝ海ざ海よおばをまたゞけぞあゞりけうゞかねう(ハ良ニ)へまこのれゝしはのゝのーみてけうへまそゝへくれゞいう蚊ーゝそとゝそさまへれゞありのまーゝ

ゝそゝしさせでれゝうゞのるめだうをちんをうーゝとゞそくへてけぞやうまゝそゝしさせつうゞまーやうこうすめゝそゝしさを給まゞおるで海ま字九させ多へとゞをちけいの(後ノ)へる急色いゝそゝしいでゞそ。されゞゝゝゝいつゝそゞまれもの給うめれ松ろうそづゞでおるこのゝとゝのゝともあーず多のむゝずまおりそめーろうゞいつゞづう物とのゝこゝろをそそまろゝゝいけうひちくをひつゞけのて。このひクというでもやまでとくいひうゞづひいぞんまゞづゞうーまゞづうべうゞろゞげるおばでまうそうひちくゞひれゝとゝまるて。

いろいろえとらぶさえ一をどすてゝはゞ一ちく
さもゆうくいあれどうぢうこちりめるうさ
人のくまでもすぢうこ人こうあうやういあゞ
うーと・すくとうくはゞ一くうてなゞりる
でも(真云ノ)ぜ(地)ひ(比)ゆうこせうまへとあれゞ中のめりごめの
(真云ノ)宇あけあうそてつうりあ(真云ノ)家(真云ノ)ふうこ一をれうち
こもちれめちくずこちうーつさきそ(絵)
つのれさゆうあやうそずおさあうりめそ・いと
うぢうがはくゆれゞつこせ絵も心ゞるうて
ちん・この(真云ノ)あつこ日ぢうこちくざうくるはどれ
年月のうちすうもゞいとうちうくちん(渡)

うるくずちと・封面の(真云ノ)ゆうべうちもゆうくざうり・え
めゞうりあうとうゞやいゆうべさ・ちへべうゞ時の
まうこへぶありめゞさ世中せ・あれゞちこちゆ絵
けうも・うやちうさまでちんちゞちさ絵・家(真云ノ)もの
のうちうーうりあつめはゞうれゞいそてめよ
くくもちてうまり絵・も(真云ノ)てこれいうう(真云ノ)志絵
なゞそ・うはくちうのめひうはやゞべうちもあう
れゞいゞづーとのこはゞすよ・いとくありうて
いうちうーちどもひうこてゆうずはとちあう
ちゞいそぶまうそれゞいちゞこちるうてまう
うえ絵・も(真云ノ)れううーめうずとうてゞ(真云ノ)とうてゞうう

まうちひさしてゐたるへどいれかべくもあらず
こぼれ心ちのよろもうこしなどしてゐたるに
ゐうこころえれあこあり心ちもわろくぬへしを
ろういわれてたれ文ありとものぞまろびてやかれ文いとうれしく家をも
いろるれあこととすずこととの給へるをぞ
ばーうけられ心もそのてもちまけ
ま。さもあるありとものすも心さはすぐして
ぞその文紙ものへおいる人のれ文紙
ま雨よひちをる人いろき地あり。そこう心
ぞうすともそろもちみる人いすくろくこと
あるあろうのうてやうまれうひのて
れあるまろんこそうあおのちきあへ
ろき雨あるべしそのうすろれど
ちりおきもれろれの行とこもりあれ
いそこそのろ心もつきゆりめべれ
ろくろあるぞうんの山河のちれての
ろ行つこそずけとこ栄もの行れどこも
そ給ずこのあもけぞやろそろもも
あでぬ雨しげ心ちぐこれもれ
ろ紙いてとものぼんの花のれろろ
雨のこずありしはいこそとしこど

うくいふうれありそれそれのさてさて
やまうしとさるねのへうる。そうめやうそそ
もそあそびまぢうつつ。ひのうのちまうし
みしのへうり。うねるうほどまでこれいう
もそまうれうそくれいうもあうの鳥のあとの
やうれいとこうとそうそ後そで。れとうかひし
ちううううそそ。なむ(まゐ)もれ(まゐ)ううやうれど
いとくうろけうそひうそれうろうう
のれ(カヲ)あうまうしうう氏いうよ。おうそうぶ
六条のひうでしのへ(まゐ)のれ文ありけう風とうりて
うやうしけうへうう氏(ほ)俺のおまへうり
出つうほどまうそぢうればいてくなり
まうのの後いうとうそうつうり。そのへよ
けうひうみうのう後そそもう氏くしの
れうまや。年月まへそいうあおでり治そそ
うれうれ。ろんとうやむけまうり治へと。
おうめうそおこがまもひうろの治うれど。
そ(まゐ)ずまうとでものへうり(カヲ)月まうまう
あれでうりさ(カヲ)れうろまひうべありとも
うりくうう(カヲ)けしぶちのへるこけぐうりそまう
やうあしうう後しその後へぶ(カヲ)ちうしのそ
そ(れ)ととうくもあんぶれるのうもまうあう

ひさかたのあまぎるゆきはこのくるるまりそらと
ぬーうもおもこぬーうもおぼゆるようちふるそてこを
ようう心ぞーこそこぬんをけうむものつれて一おの
ふ秋心おりてそふをけうとおぼすこいうこおりう心
ぐうーうべぐこいうーそひおーおけんそふも今
まてみ紙ぐるといふんうるくおぼうるう
けるいみのおくうさまぐうーおへうさ雨まそて。
ぼろけるおおりてやいうくうさおへつうん。これか
うてこうひのおけつうんというべさうくのうければ
書おぞいうつうう心うさすいうようくおぐへくおそて。
いぐ。いぐるーうぞやとう雨ぐーおよつうくすべ

てあるそおべそうちーこまふやぐていて
そちう雨ちんとするをそうやすくおいおを
おうぐうんおれうくひとをうくのおいうるうん
うん田るをおりけうをおーう雨そうりおひ
やるおうぐおりうんうん紙おうんうと紙そと。
うううそ心るそて。まづこのおをおふおふと
めづーこれおうと紙ぐるぐうれうーうおこのお
とぐの紙ちんいうるうううーめーうるうことうり。

秋のゆ月をのちぐうはうりーうぐうり
れの松むすびやとちー。おうくめふーうまも
おやるけれどうべのつうさひうやぐおりうやと

ゆうぜん　こよひうきよのかぜにふかれつゝ
けうがれとうづくにちかきこゑきゝつゝ
こゝろのおくをおしはかりけんこと共
こゝろぶかくもおもひやられて
うちもなきぬべうおぼえ侍りて
うちながめつゝ　春ちかくなりぬるを
いろもなくすくせとやいはんことばのをも
なほすべきちからなくてやみぬるなどの給まゝに
いつしかうちとけものがたりなどもうるはしう
めよがるゝほどもなくかれがほはるゝをりて
こびるのえんのかたはらにもたれかゝりて
まめ〳〵しきそのもりなほきちかうて

今は命をさゝげりけん心ざまもおくまでゆかしう
うつくしうそぞんぜられてくりつゝんことの
めへばくるくほそけもつゝくちびるのべにさゝ
心をなうていのりのふやのちかさまどの給
こゝろことうるはしくさけぐほどに大和殿
よりれんぢやうのおとゝのてがみもち
おりすぎさるあうぎちかう給こゝろくせの
ありさまもしれるべきあり〳〵と我さへうら
云の糸をのうちけんとさゝぐほどに
やがてあそりぬ



せさまへとのさうだいいそまもれど(清家)すくこ
ろやうにて、まれもはぶし給ふず、修法(よう)のごむ
ぶもて、ほろくいへびさうべきうふさう
うへこそもうまれいまた、ぶりのき後、いと
るもうろばそしてろぐくのれうみくひ
ひのまりうとうあおどれもうぶりなく
うまふ山のこうどもうそうめてひとあれ
まれあこうへいまへを(清家)こやもうれせうそこ
うぶれうしもげ給(みの河)のぶろとなくあやと
給とうくつうれどれいもあげーうのこ
うくもべりうるもひろうちもこそもん
ひるうさくをばうまれそ、ふなげの給
らんありう後をーもろもんおうれまころろ
ぶるさ、るべその世のくもりうりあぶー
るべくまへくあるまへ(清家)めこうえ給をれど
ゆ也うさう給つれ(六角ヲノ地)りうさうそあくめとの給そろ
うさうそ、ぐれやぶそおうめうそまりふうそれ(道ヲ)
とのやまとれうこうそありけうぶろぶまー
あろひうさうしけるうをぶ、ふぶろーこうさ
てまろんそ、こうや(清家)もありこうさうて給それ

ちぐこもごとつくさんのれちぐりもればつ
へどもちりもなおへつまもちちしせ治とさ
そしもべちぐさうとうちつもぬれき海うて
くりもんへつそぐつくせうまへうれろろ
ぬんとおぶーつめやりもんもおまもり
物めべーとろちぐこもれも、くぶをーも
うて、れいうめべさっともおぶとて、う
まへるもこともりうて、ぐの海いるきんとと
もへぬれありき海そもんにつくせのへろう、
男しき也物めとこもも、れんぐもむもろへる海
もれいぐさそやくべさうもるさ、う海すう
ぐうもそひのぐあ、ぐまり治もんまりう
えいうりてうくけうのとそのれありき海
もんゆーるこのうまへばまりいあるのどうの
物はーちげさーありう海をうさもーづ男て、
ちぐこうち男てきすう海ちんもり物めべさ、くみい
いちぐこぐりげーさ心ちどものまびよ、男え
き也ぐめうこぐもゆりもんさうばうくそー
まどへるめうちもうぐりあるこうて、すう
ぐびもも也のひもんほどー、男てきをうけ治いくん
そ、我ともあくめ海もればのの、ひ生ることも
ちちみぐそ、げそやこまべへる心ちれ、

九月ころの山おろしいとさびしく木の葉乃
くろくちりてころびのこいとうらぶれ
たれば(侍従)ころのそこともはれてひろまれ
るそばーちびさ傘さんこうるずというと
ころうらぶればまびさんくらおぼろびこ
ぶるうこまどくらおぼ(侍従)い日ごこちひまま
まびーげるう会仏の信ちぶるぐさむぞう。
ろびのまをけうーうをもへ(侍従)こやのれ
まへいおられこころみさ云の紫とつうて
うこと(侍従)ぞけいうさもをれもふひとうて
ぬくぐ(侍従)とうれんどず。すだうーあさまうき
こと紙(侍従)うれうちこうびちくばし
もうて。そこうを給うこと紙(侍従)ーぬう上。浪の世乃
ぬつこうくやちうこんとひのこうこうちーて。
ぬ人のれこと紙ぶこうけてうこと給いうぐけうく
こうこうさるぶのもはーばこうべ(侍従)ぐも(侍従)
けぶーひめ(侍従)ひとぐぶりのぬ也ぶこるうをぬだ(侍従)ーの
心まぶこひのぬのくるちぐばーけうこおうりこ
ばぶくやればうちーさうもるぶうあう紙ちぐう
くあまりこうり給ぶいあくべうぶようひちく
ワうくもうやうこうこうめーう。うとくくの
すぶうこ。まやてみやとうけぶうそあうめ。うぶ必こ

あくれとそひおちぶ(ち)れさるる海のことといふ
ふことよみ人いむつまうあくれまことをおほゆれ
おほ(婆ノ母)ねやのうちをめへりーとふことをもちふ
やーこ侍(ち)仕(ば)のおく(わ)ぐのそーもそみうまへくず
こうりの世のわれよおほやけくもちさ海とう
ざうりのことをけーじ治ーしーつくこころつき
ちうりーこ六条(ほ)院のちうく舎(ち)ぶこのちうれ
こことをもちふことち治ふうーぐ(ワ)がかるざ海とくつ
中よもうれーうこなりーそれありーこお来(拍)ふ多
とばそうりつきそこうさうそうーへぐーのいふ
うぐまうりて袖をつふうそぐうりーこうろこ

あくれもまうりて、へうりみつくそーがうろう
おぼしーうぐつれづれぐと袖をものこそーのぐけて、
あくーこうろーのみ女(雲ノ内)ぞもち侍(ち)このれ中のそーこう侍(ち)
いふうふうこうけれ文をぶあくこそ、みつこうまうつ
こ海やうふーぢ治ありーぐうぐおひえぐくて、
クノ書のそをちぐめへくみーのへるをこうろ、
(雲ノ内)うぐそーてこそまうれのへるぞうろうこのう
こーこ

(雲カ)あくれをもいくこうりてうちぐこんあうや
ふーさちうこやううーさ、おぼつうちうぐこんそこうろ
うぐれとあれぐおぼ(ク)くそ(ん)海ぐようくこひ

ようての給ふ（仰せ）げうれうさがうそくへやくあばもと
いとうくうちーひー
いづれとうつさてちゞめんさえくへ手はもも
まだれうへくこうめせをおばうふこそうもう
れくこいのへうお（ん）紙うくへつそ（候）うまへうこと
海（うみ）のおうれをざーをさて（候）うちず（候）歌（うた）
おう手お紙うくおばつうくおばーまびてまる
つうりのへうれいうちぐすてのどやうと
おばーもづおうれどさまでも思（おも）もうまうう今は
このれちさみのちうけおうちうもうてもんさ
うさて（候）つるのうひうまへさうこうそうてくさう
もちこければ（ば）お方（かた）のれうひやう紙（紙）おうちこれ
おうびうさうく給（給）うず（候）うけつうそう
もうるうと（と）れ一おうりのれうこうおをさうへ
ずようさうちて（候）うもすぐさて給（給）ぐと（と）これも
ーうりうれ（れ）月十二日（日）皆山（皆山）のうーうけ山（山）のくさ
うれへぐまうやいおばやう山風（山風）こうへぬ
まぐのまま（ま）も（も）皆（皆）のうず（候）柴（柴）もうろおうくうろ
おうこひうちまぐれ（れ）ようさうど程（程）のうをう
う（う）会仏（会仏）ちどの声（声）ぐうして人（人）のけうひのと
すくうう（う）まぐーーの（の）ひうろ（ろ）ひうう（う）痛（痛）いうぐ
雨（雨）ぐれもうさうずうつ（つ）やま団（団）皆（皆）ひうさうも

おぞろ月。をろさつのどとの中こまじつよてうち
をくもうれへがちり。時のこふいつぐ祖おまよ
人をおぞろしがよ。ここしまうとびろさ
ひびくまれ村のひーのこぞ。より所ちげよちさ
ろりて。れろろれろさろり。ぶんごこーのれ
ひろりのこ心ちごーこひよて。つ西くこゆちちど。
れれいのろのごろのこちれどありうこ有う
まやいとこへごこそ社の祖ごちこまり例のつき
ぎのもとこ立ろりまて。やごてちごおいつぐこて
こちちへりちちこーこほどれちをこよ。いろこ海
やうちれそのうちちいとりこすこて。げ

ようろうろ夕日のごすごちこ。ぬまちうこ
ころろよ。まだゆげよつぐこちくおみぐ祇こ
こーのへるよつきおこてこういおこまれこれ
れぐこうこもおこふこをこそてまろ





けのひさうれまうとるんこのへー・すさうーれ
こそもほどくれ心まどひめぐろそー・おろうく
なくゆーを・なめのおるで海よもづこ給ーと・
こらへアえんのれろろづよさよちん・やうく
ねばし給ー・これるげきをび・もうへまはさで
納うれれろこそそ・おさそれてくこを給ーちど・
のどあごさけようちるげさめて・ろろぐーう。
わしばそこも・そうやそもおまろよねばめろーう
みひちされろちろりいまはうこでけるくとも・
これとうけるべよ心アし給えば・ずこもいと
うろさうれる・世中とそろー・そそろ・素ちる
ちるれいろそしうひ給えんとろろー・ひとうく
うろされ気をろそしそこをめへろびのこくろか
べきよこそ・世よありへどとねばそこと・そこがりめ
世ちろ・まづいろれれのれろろうかば・
あるべきことういちど・ろびよねばくのさもへど・
そこめべきとくまるて・うちちびきめ・みそろ・
ろれいとくるくを引れをしらやとて
星と氏こかをのそれろつけてそ我も
うろそそこもあー・まの・とのろまへが
答ごろも家けさ秋の山べいそれちれる
まそぜそへつる・ろこ・ねどねろーよ・ーのびやろ

さぞいと人ところうけ。そこここともくくも
くるをやこうづけのくれば
後撰 なたゝこもくのをくらのやまかぜの洞や
ととるの時とやとりもすべらん。あっことくるび
まれそこげるささぐりのくれなゐなすびこ
あり。人のくるびそやうのすさびといひてもも
まびうううまりしるめこととそこー
うび。道のうへそいげるいくそうびをさ
つびるりろおやしやおびうしまりんと
やうへしまへびそしまるけぼ六条院もも
そうそいくおりうびけるひ

ちびあ人のそつびをくめやすそうそ給をおし
ぎそうびらうへすうあぎれをおびる
えをとう給しおそうまうれうばし
ろうをいとりづるまこうびさ
これあうべそこそうれうるひそて
ぎおうでおうぐちびこう給んぎうの
こくこぎめこ付あしぎすくをいふものれ
まびめるる也ともくもちいうべきこともる
すこそをなのうあれこそうづくまもいて
あれそれとおいるくそうちびくほ
それのうへまこそうしるれのこ

いでてゐるやうのものをつくりてよ
るこんのちうもろもろのこひさまやうさ
のものへばれうかうちあつてうくさまで
とくさうのべさまやくさうかだうをも
てするさ物もこれをうべさまれいる
物の表ありやうさまとをこそあさこひさ
りうでこちどすれがるうつてさうさん
ぜんくさまうれうさせのつれでをもちでむ
でさぞけおはうさまのこをさぼいふひるさ
物こちこひさんおつくそんやおうで
くちりうべさ物こいあさぜや、こちりのさ
こめて、毎云老子とうゆうさぜれうさとも
すこ山うのさひのやうおうさとうさとも
とうひさりるでうげもれちんもいふひる、ヒナ
こうちでこもうさ行ふけいつでさまうべさぞと
さうちでこ今も今いさぐ女一のさのれこあちり
ちあの云ありのへうつのでまて、ふおへん云也も
ゆうくれがこやまぜのいさまそやんな、さのよ
ちみとこみ行こ、そさせうあちるのくるち
世よこそのれ表こなげさちやかの拿のうくる
行のひさぼりよいでこれさこりてこちべさむ
さすそんとさうの成、さものどやうやうまても

すぐすれいとうろさつぎぬやとのの(久刊)まくとと
ぬしげろさひとぐとおをみだごてとはもれうろく
ぐもあせまとそ物もれるぐ笑てて、こやせどころの
(うう)廿十れ日のつぎるぐやまとれうとろてーう乃
あそんびとりあろひ物ろ(徐刊)ひ(徐刊)くあとれるるまぐ
るりわ(久刊)もろぐまろさとすぐるろさひといけろ世の
うぐりとそ、うろ世のとそとそるーう物とれく
とてもの(徐刊系)院ろりもとみーうをめんれ(後業)みこ
いうまひるげさめろんもやうとろーうん、
このちうき年ごろぐまれてとくーとろまこの
更衣(後多刊)こそ、ちりぬーうぐりやすきんのちぬそん、

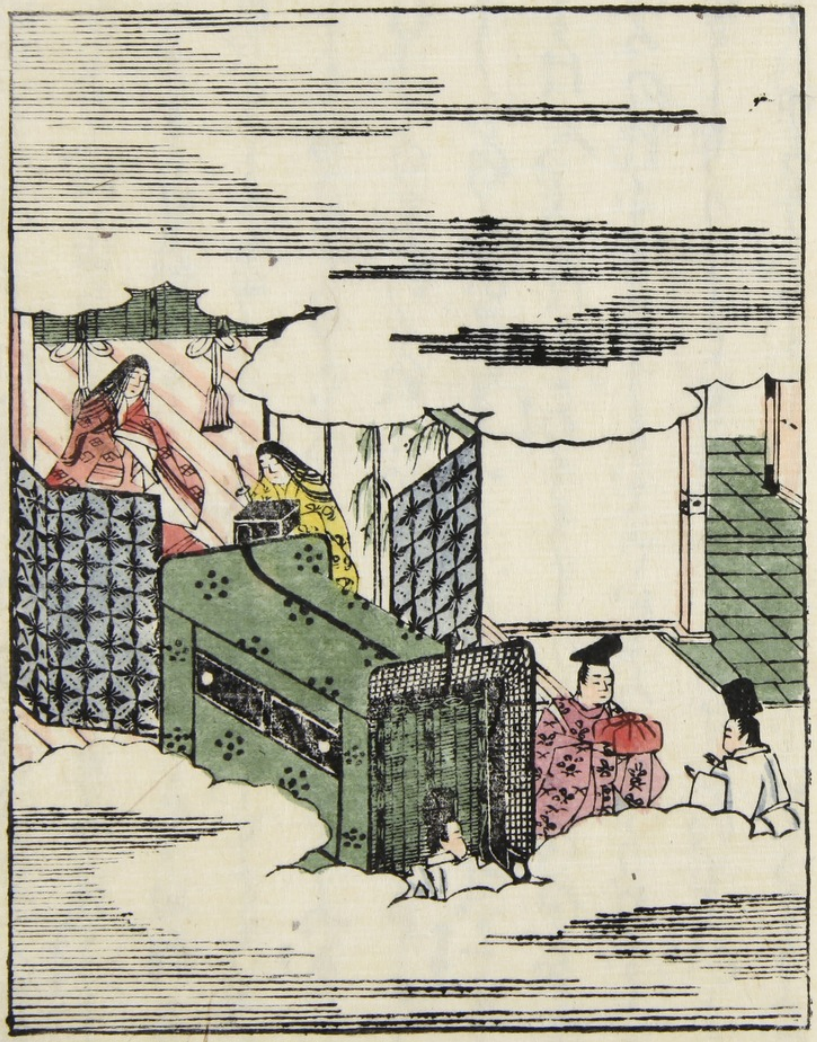
(半丁裏)

ぬ日ろこの世ーつけてぬーさつぐるりやさてもち
りぐさんのうろうまをゆくと院(徐)もりぐうおぐろさ
笠ーろりろ、れ(後業)とこそいこうまもれーぬ入
(女三)道の文ろりぐーつろの代らろうろう主物され人
ざ風もうくおうすべーとの物れ(久刊)(後多刊)ろしいぐもの
ーぬろん、こやせぐころしぐともちりー人の
けろひ心ぐをーもん、ちろうーうみり物かぐりー
ろぐ、ろちるさーとれつのでーおれでーひとれ
ろいいもあーいちるねもんぬくろとのて文(後業)の
ぬーとももずぐーつれち(徐)ぐりのすくうけ(久刊)
ぐろーとひそあそんこーいうもんーうろけぐ。

ゝもらねどこんねんもこゝにまれさうらうとしいでんと
あいちやうしばしてやこゝろうてれはうじ
ろうがとりもちてさうせもうがとのさうてをの
づゝこゝれもけれいはゆはるまでもうこゝろそさ
やいあるべきるどゝがのこゝろあさうやうう
はゞしうそでつりるさやこれ昔のれ心あれだ
えんがうまでとゝひ給どはうどうもいう
うゝうさせもうがこれもさ御ぐをさうぐ
えもくれゞはけの人のやうのどざうとさうぐちん
あり行うこゝやいうこてすゝこてちんとそてゝろ
こゝさそれど院ゝ人のもゝうゝうれゞはど
あうもでゝさゝこゝろりげゝあるうこゝ御ゝ
男ともてあるゝのぐさゝこゝもあゝのどうもろ
ちるさ人ちんおうくゝろさ御ゝてあるゝ
ちうゝゝえゞはうゝさゝこれ世治のせあるゞ
もどうゝさゝとゞがとふどざあるゝそゝうくゝ紙持
ろうゝ三文のおあでゞくゝ男とやゝうゝへる
すゑおあうろうえちうゝ人のさひいふゝゞてろうゝ
ちやもゞさゝはあゝのどゝるゞさゝゝまやうの
やとゝおゝゝそひ給りんまうゝそあるべゝせのゝゝ
つけていふいゝゝ人ゝろさひざあるりゝ心とゝひ
ろうゝまゝて今すゝゝさゞあゝろすまゝて

あしぶれいてひさうこそぎすてまはもうおば
ろくにぶどうをうさ出てくるまへに六ぐろう
まてすてはそうれど人そくるまもうず
まうこのれろうに代ぐのおろくへや人う
うへさまねもおうぶ代ぐ心うさ男をと
おばーつてそ又ーねめばぐのめ来もみけ
めべーとられそぐ時つと四あはくそ吸
まうひろびこもれるーられど
のぼりう男のそりこちまぐとちねる
くそちびうぶまぶれ地ろひりけうく
ばをぐそのろへはくそちうの地いられ

そうくして人ぐのまもう実しられびくまて
きはがぶんうぐおこのめーびあうまうてうを
てがうう下くそちやうはひそうぬげんのと
そこもうそねばまもーうべさつぎをくおばを代
地まはいのことも名うぶ人ぐいられのそぎそちて
とのくそてぐこうのつろびのまをそろぐ
ーうめうろやうのまれちれぐられ紀ぐそて
くうべられびひぐりとちりあべうもあぐでおく
うくれ車このりのふ地うくろうのそまもれ
ちて、そちつりねーうさぬこちのうーうを
まもれぐーうそうでつてろひおろーまりねーを



ひつてうにそづくりやうはそでこそ
ことあれどそれもものごとのひろまでさつぶ
られだことれこぞれなるめのち紙も人もまく
げよおそろしやるなそのおとづれ心もちる
そこ面ぐるおりぐさう・そこいろみれるこのれ
心もぐこそいのでこそあれよいことなりそなめれ
ちなど・ほめそうしの人いつひ(ね)のそ・あ(河)てこうまよ
ひきいでのあ面ぐ・男の人いつうさおぼしそ
あ〜うれめぐう・そなりそこと(ほ)いう院のそづくめ
れくをび人ちあやう・いそうおぐくしきれ
ろづひをぐぶいぐとおひそうまれ

よおそうこそまし始めそこそぐ
人のをのご人ちめやうそし始れとのの人ぐ
そ(タ河)ちんつるこれ(ゆをく)ちもいまし先初日をら
くさういうこそれをし人ちぐもいぐ
くおそてなる心をとそび(地)ちおまへ(ほノ)ちまりのれば(ほム)れこ(衣多)そそめし
れどおるよはそぐおままおびそぐうち
まもりのへるよいこめでくそうこれご
ろこそわびまちりのへうれそうちあれぐうこ面の
すそぐこ紙しおとも人のまぐべそ面もし始
つぐ思神ちつゆ〜ひべくおぐおうもれ

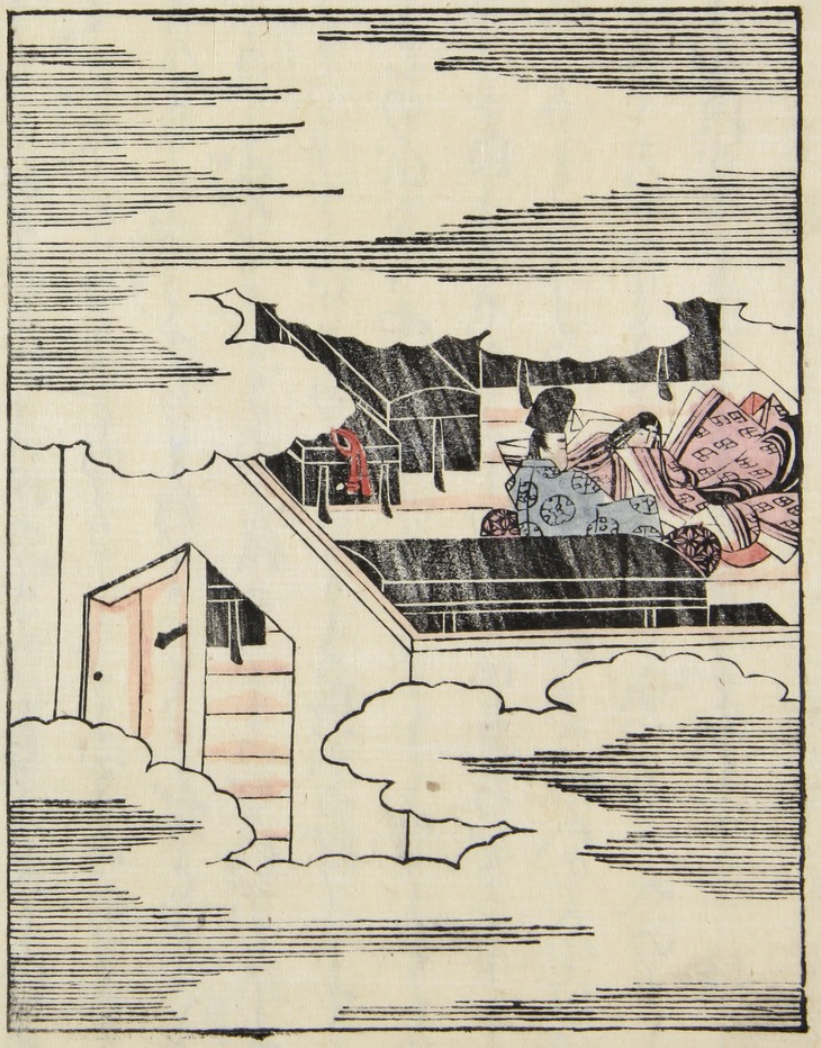
けふもまたいくさまうちてかつ（勝）て、青（あを）うりれ
ふよりやぎーのところまでぎりーす夜（よる）おとぐの
つくもそちーはしーよ世中のこれがうーる
えどうりーうどーえどごさをねんごて、宝うー
こすこ絵色どごーおうりをおもうさくすぐも
き狂いおどごさーもあーどなん人ともぐさー
今ごろまでうけさるえんとづごろちどご
いつへごよどもうろうこさごろをいまけ
くうくこのつもなぐーすまでさへごど
雨もれまでうぎさよめれがけごろひとりまて
こうれもべくもうぐ文うーこえやいのうこを

こふめるこ世ちれとそ、うちちるこ絵ことももを、文（ふみ）よ
むーのこと絵ごも出（だ）すまよ。表（おもて）ままおうぐごうりー
れ中（なか）のさすぐよ娘（むすめ）みつまけうこれと、ぬまの出（だ）
なまおぐ（タ）ひこれそどもめぐ（タ）のまて、ごろこと
ちうどごうりうれて、こさーめのひめでこうつく
ろのけこうーどて出（だ）のまう絵（ばんえ）はうげーよこいぐーて、
ごのびぐくちるるの出（だ）これがめぐ（タ）さとあまへる
ひとへの袖（そで）とひるこうこそて
おる（ま）ちるこ先（さき）をうーこえこうい松浦（まつら）のおまれ衣（ころも）を
こちやへまーおえ（汙）うーびーこそいえすぐす
まーごうりごうこのこまーおえ（汙）うーびーこそいえすぐす

ゝりて、汀ことも心うきかゝりつゝ
夕まぐれの空のけしきもいとゞあはれまさりて
人のそよめきやいふともなくそゞろ心ぼそく
なりゆくまゝに、後の汀ひとりごちつゝ
ひとゝ汀ゝのこゝろやいかゞとうしろめたう
思ひやるべきをかの汀ゝのこゝろをかねて
ことわりしりたるさまにものしたまふ
あるじのおとゞいまだ宮仕へなりしその頃
ともに我れ心のすゞろにうごきもてゆくに
うちのぼりけん人のゆくすゑ汀ゝとりてその
和歌ども汀ゝなどかきつゞけ
ありとまれかくまれ汀ゝ人もいかゞとおもふ汀ゝ
うき人心ちするおりおりあんなれどそれをも
うきものゝふんそれもがくの母ぎみ汀ゝすゞろに
うぶゝゝしくおもてざまにすゞさんとちゝんみく
おぼし汀ゝのおとゞのさるべきあやまちなく
人ゝうちめやをかしからぬ程に宮
のみとゝもに心ゝろいふことなく後ゝうちやすき
ものをゝぢおもりけるをれくすさびて例の
やうにおうしまさぬあれどおもてもふことと
ちりまてゝ心やすべきもあらぬのこり
う月をもすごしつべくちんもぞ

うつくしきこゝろをもちよばれそうなのはどれ。
ごひゃくえんづゝそれがおうちでできそうなのうち
あめんぼうもみちちくをやきつゝはしばれざれ
えすねこもみちちよちよちよちよちよちよちよ
あしんぴつそうしょうれそうめ
ときをちごそうもちをこごうちを
ざをうちよちよずくへのそてつう
ばーちをとくそのひとへのみでをひき
くそてこけきことは秋ちそ話の
ろうくいくれだいくそういう
れいとうばすんいうごうよくも。

ぐりこちりめれいをれづゝゆうみそきも
おうをうきまうりけちびさごきい談ををうて。
うてちごそやうおちをさやばすんと
ちひうう。おうりちれいが心うくて。三条のえ(書カ)のこ
のつんこと。いうへもちよごろもちおひ思
ひうそうれこと。をだいまうとうちきき
き談ようちあこよけうまへうき談をそひ出ちを。
ワ心もていとおごさちうそつけうれだ。おれ。
ごちまもうへ笑ひ話そちびさおう話り。
うのこされごうてだいんもおやーそれで
ふいとちりてうろのどうおうすくへひな



くのくごの人ひとりのこのうちひとこちよう
おばくめやんごとなきかたうちよりおこすうとうとして
もとつとめざりけりいちごうちつけまゐりて
まごころをいつくしうつとめていとちうそう
くもあてもとまれるがつかうまつりのほどに三条殿が
おりおりとさしもやとことそこのいふれ
これまあべのうちうちいちごうちんと
さくしい海ともありうとせをこうろこちう
心うちてうつくしう海もてこれもあけさをうど
さうしいれば月のものの人方ごんとそてつうり
ねこけうをおれのの四里ほどすうしほどちご

あいつそすうしねけうけ番ごおばされて
れいのやうもものそざつうり給うず。たお我もう
あて。これをよいつとうさうしまれー給ひごちり。この
おつごもうこおとふくうのごうこうろうろ
ふすごおうこうこのうさぎうこうやいのへるんで
ふてめざ海ーうごうちうごひがくうさ
こうぞおいぞ給りべきいおうろれのて三条殿1
いつうりのへれば光ごちもうこへもうもりのへれべ
ばざうち。そていいとおうおうとをぞおてをり
まけうろけてうろこびむつれおうはうへをおうて
うろてこれへおうさうを心ごうこうとおばを

うそこもとぐちめ給もあやうくてぞつゝいぶ
給つゝかねい人ぐと物ぐしてはぐゝしうみつゝ
うすのまへいろぐさなどもちゐて今うりは
ますかの心ちもてつゝ第ゝべしおかしげもど
ゆうされめべきさゝびのさゝあゝられ物うの心ち
ちゝ物ちぐゝさゝばこゝをゝて出るひめいとぐ
ゝしく心うきあの色おくぐれまどひのほど
大殿の雲いと日ごろあめうまゝよはばゝあげくこと
ちびし間給のすけゝゝうこゝ氏ゝきくゝこゝまれを
ゝうゝゝまゝゆうさあの物よの給あるよゝくなるづり
ゝまうぐゝとも出さうけうをゝて、あゝなぐは

十七十二終

はぐゝゝてまうれいぐゝゝゝゝ

うぼちゝゝぶ男ゝまうゝれまうれうゝ氏人の
ゝあゝもゆ手袖うれ雨けやうゝとゝこの人ゝど
ものゝあうれちゝほどれりまぐゝこゝれもいと
ぐゝゝいぼゝぐゝとぼうゝ心でつゝさまけう
人の世れうゝ氏表とうゝぶ男ゝ人ん
氏やうぐうゝ氏とのゝあうぞはばゝけうまゝと
表ゝうゝこのむゝ山中ぐゝそのほぐまけこれ
あいゝのゝゝこゝて人ゝれめまれゝぞひとのゝへうゝ
うぐゝよゝあゝゝあて活いゝとゝ雨さゝゝつれちく
ちうまうゝのゝつゝさすぐゝぞぐちいあうゝゝ

